

# 犯罪ゼロの社会へ

和木町立和木中学校 2年 杉村 佳奈



私の住む地域では、犯罪が少ない。

この作文を書こうと思ったのは、なぜ和木町で犯罪が少ないのか、深く考えたいと思ったからだ。

世の中は、暗いニュースにあふれている。

私は、それらにより社会が暗い空気になったとき、犯罪が起こりやすいのではないかと考える。

なぜなら、もし私が犯罪者なら、笑顔あふれる明るい雰囲気の中で悪いことをしたら目立つし、やりにくいと思うからだ。

もちろん、防犯カメラ、ブザーなどはもし犯罪が起こったときにはすごく役立つだろう。

しかし私は、それ以前に犯罪が起きにくい社会にすることが大切だと思うのだ。

例えば、私が学校に行くときは、最低でも3人のスクールガードさんに会う。

歩きながらゴミ拾いをしている人や、にっこり笑って挨拶を返してくれる地域の方にもほとんど毎日会っている。

おかげで登校する道はいつもきれいに保たれている。

気持ちの良い通学路では、自然と明るい挨拶も飛びかう。

それらを見ると、私にも何か出来ることはないだろうか、探すようになってくる。

犯罪を犯すとき、100パーセント憎しみや怒りなどの悪意で行動を起こす人はきっといない。

私は、誰にだって善意はあると思う。

そして善意とは、すでに善い行いをしている人を見ると、自分の中でもどんどん大きくふくらんでいくものだと思う。

つまり、善意で行った善い行いは他の人の善意もふくらませ、防犯につながるのではないかというのが、私の意見だ。

また、他にも私が注目しているのは、いじめによる言葉の暴力だ。

なぐる、けるなどの暴力は誰が受けても同じように傷つく。

しかし、言葉の暴力の難しいところは、人によって全然苦しくない人と、体への暴力以上に傷ついてしまう人などに分かれてしまうという点だ。

このくらいなら言っても大丈夫だろう、という安易な考えがいじめをひき起

こす原因となっている。

いくら仲が良くても、自分と他人では違うところがあるのだと、私自身も自覚していきたい。

今まで色んな大人に、

「自分が言われて嫌なことは、人に言ったらだめだよ。」

と、言われてきた。

もちろんその言いつけは守っているし、大切だと思う。

しかしそれは、最低限守らなければいけないことだ。

自分が傷つかない言葉で、相手を傷つけてしまうこともある。

だから、相手の立場に立ち、思いやりをもって言葉を選ぶことが大切だと考える。

さて、これまでは悪意のないいじめについての話だったが、悪意のあるいじめはどうだろう。

例えば、いじめをすることを楽しく、快感に思っている人もいる。

それは、自分より下がいる安心感から生まれる感情だろう。

私は、最近歴史の授業で、江戸時代の身分制度を習った。

それは、武士や町人の下に、さらにえた、ひにんという身分があるものだった。

町人は、普段は武士や幕府に支配される立場でも、もっと下がいると思っただら安心しただろう。

自分より下だから、何をしても良いという感情を抱いた人もいたかもしれない。

身分制度がない今、私達は何で上下を決めているのだろうか。

勉強や運動など、優劣のつく場はたくさんある。

その中で、得意な分野一つを見て周りの人を判断する。

そして言葉遣いや態度を変える。

これはいけないことでありながら、競争社会では簡単に起こりうることだと思う。

このような行動が、いじめを引き起こす原因だと分かっているのに、なぜそうなるのだろうか。

私は、いじめを防ぐためには、常に視野を広く持ち周りを見つめることが大切だと思う。

広くするためには、想像力が必要である。

例えば、自分が得意なものを、苦手と感じている人がいたとする。

そのとき、相手のことを下だと判断するのではなく、相手には自分と違う良さがあるのではないかと想像することが大切だ。

その、人それぞれの良さを認めることができたなら、いじめが起きないだけ

でなく、高め合っていける素晴らしいクラスになるだろう。

防犯という字は、犯罪を防ぐ、と書く。

しかし、今ある防犯グッズは防ぐというより対策というイメージがある。

犯罪が起きたとき、どう対処していくかという考え方が、もう間違っているのではないかと私は思う。

いじめもそうだ。

起きてからでは遅いのだ。

私は今回深く考えた、いじめを防ぐ行動を実際に学校で試してみようと思う。

それが今、中学生の私に出来ることだ。

だから大人にも、犯罪への対策を進める社会ではなく犯罪を起こさない社会の実現について考えてほしい。

ニュースで犯罪の報道がなくなるくらい、明るい国になればいいなと心から思う。

私の住む地域だけでなく、国全体で犯罪がなくなったら、どんなに気持ちが良いだろう。

そんな理想に胸をはずませ、私は今日も思いやりのある、善い行動を心がける。